

2024年度 事業報告

一般社団法人 福山市医師会

I 公益目的実施事業

- ・公益目的実施事業として地域医療推進事業及び看護師等養成事業をおおむね当初の公益目的支出計画通り実施した。また、看護師等養成事業において、准看護課程が閉科となったことから、公益目的実施事業の見直しを行い、変更申請を行った。

1 地域医療推進事業

- ・医学の振興並びに医師の生涯研修に関する事業として、学術講演会、日医生涯教育講座等を開催した。
実績：当会主催・共催・後援の研究会及び講演会 開催数 167 件（内、日医生涯教育講座 130 件）
- ・医師会速報を年 23 回、医師会広報を年 4 回発行した。
- ・市民の皆様への発信として運営している「いきいき健康メール」は 2,417 名の登録者数となった。
- ・医師会ホームページを通して、市民及び会員向けに医師会活動や医療情報並びに疾病の流行の情報を提供した。
- ・子育て中の家族に向けた子育て支援情報を毎月発行した。
- ・福山東、福山北、福山西の 3 署と「高齢者を犯罪や交通事故から守るための協力に関する協定」を締結しており、引き続き情報共有・連携を図った。
- ・禁煙支援のための市民公開講座を実施した。
- ・会員の交流事業（夏・冬）を行った。

2 看護師等養成事業

- ・入学者は、第一看護学科（入学定員 60）が 62 名、第二看護学科（入学定員 40）が 37 名であった。第二看護学科においては、前年度に続き 2 年連続で定員割れという厳しい状況となった。課程再編に則り、第二看護学科は 2024 年度の入学試験を最後に、学生募集を停止し、准看護科については前年度から生徒の募集を停止したため、入学者の受け入れは無くなった。
- ・ホームページのリニューアルに取り組むとともに、福山駅前の電子公告・マスコミ広報など広報活動に力を入れるとともに、オープンスクール（6 回）、高等学校 42 校への個別訪問など、受験者拡大に努めた。
- ・本校で学ぶ人材を広く求め地域定着を図るべく、第一看護学科の「社会人入試枠」の受験資格の年齢を見直すなど、社会人の受験を促すべく取組を進めた。
- ・学校評価の取組の中で、前年度浮き彫りとなった課題に取り組むとともに、学校経営のあり方を多面的に自己点検・自己評価するとともに、学校関係者（学識者、臨地実習施設の看護部長、卒業生）による評価を加えるなど、評価実施を通して本校の看護教育の充実・発展に繋げることを目的に、学校評価を実施した。
- ・課程再編によるスケールメリットを活かし、福山市の運営費補助金を原資とする独自の奨学金制度を市に提案要望していたが、市の単独事業として前年度創設となった「看護学生支援金制度」に続き、「社会人看護学生支援金制度」が新たに創設となった。看護学生の学修支援のためにより実効があがり、社会人の掘り起こしが進むような制度となるよう、今後も市と連携を図る。
- ・第一看護学科、第二看護学科の「看護師免許試験」の合格率は 99.1%と全国平均（95.9%）を上回った。准看護科の生徒は課程再編により最後の卒業生となったが、一人の脱落者もなく全員が卒業するとともに、「准看護師資格試験」の合格率も 100%であった。

- ・看護師の地元定着促進のため、市内医療機関の参加のもと、学生・生徒を対象とした医療機関説明会を開催した。年度末の時点で、就職が決まった者のうち市内への就職者の割合は、第一看護学科については65.6%、第二看護学科については70%、准看護科は46%という結果であった。

II その他事業（部門別事業）

1 健康支援センター（健診）

- ・2024年度より協会けんぽの付加健診対象年齢の拡大があったことにより、施設内受診者の増加および1人当たりの健診単価が増加した。反対に、巡回健診では付加健診の項目が出来ないこともあり、施設内への希望者が増えたことにより減少した。
- ・住民健診においては、主な受診者層である団塊世代が後期高齢者へ移行したことや被保険者本人に切り替わった社会的背景により全体としての受診者の減少が続いており、前年対比99.8% 約263万円減となった。
- ・健診における画像診断は、診断精度的に重要な要素となることから、経年劣化した読影端末を精度管理の向上のため、更新した。併せて画質が悪くなった超音波装置や肺機能測定装置に関しても更新した。
- ・新たなオプション項目として「エラストーゼ1」「推定塩分摂取量」「微量アルブミン」「腸内フローラ」「APOA2」「胃がんリスク検査（ABC分類）」を導入し、受診者の多様なニーズに対応できるようにした。
- ・他施設が健診施設を新規開業したことにより受診者状況が厳しくなることを踏まえて顧客企業へ継続受診していただけるよう挨拶回りを行った。
- ・広報活動の一環としてポートプラザ日化や健診企業先のイベントに参加し、健診センターをアピールした。
- ・現在使用している健診システムが2027年9月に保守が終了することから、新たなシステム更新について価格や機能、操作性等総合的に業務改善できるシステム構築ができるよう検討を進めている。

2 健康支援センター（検査）

- ・FMS事業により、生化学自動分析装置BM9130およびBM6050を更新した。
- ・微生物検査部門において、血液培養装置BACT/ALERT VIRTUOを新規導入した。
- ・福山臨床検査センターとのBCP連携の一環として、一部検査項目の外注化を実施した。
- ・検査消耗品や検査委託契約、集配コース等の見直しを行い、経費削減に努めた。
- ・新規開業医療機関の支援を行ったことにより、検査部門を利用していただくこととなった。
- ・すこやかネットを活用した検査連携を新たに2医療機関と実施した。
- ・感染性廃棄物処理業務の再案内を実施することにより、新たに4医療機関様と契約を締結した。

3 健康支援センター(病理)

- ・免疫染色装置は老朽化のため、更新した。（ロシュ・ダイアグノスティックス社製 ベンチ マーク ULTRA PLUS）
- ・ミクロトームは老朽化のため3台のうち1台を更新した。（大和光機社製 リトラトーム REM - 710）
- ・病理検査システムの更新に向けて、プロジェクトチームを立ち上げ検討を開始した。
- ・井原市子宮がん検診業務委託契約に基づき、検査体制を整えた。
- ・新規開業医療機関の支援を行ったことにより、病理部門を利用していただくこととなった。
- ・口腔病理診断管理加算1についての施設基準の届出を行い、算定可能施設に認定された。

4 健康支援センター（地域ケア）

- ・地域ケア3部門は2024年度にスタートした3か年計画に基づき、計画的な事業運営を進めた。
- ・「福山市医師会地域ケアセンターIROHA（いろは）」では、福山市在宅医療・介護連携推進事業の委託を請け、地域包括ケアシステムの推進にむけてさまざまな関連事業を実施した。

5 健康支援センター（夜間小児診療所）

- ・19名の出務医による当番制にて、準夜帯（19時から22時30分）の診療を年中無休で行っており、出務医一人当たり年間18回前後の出務をお願いしている。（2025年3月末現在）
- ・2024年度の年間受診者数は年間5,872人となり、前年から1,461人減少した。受診者数はコロナ禍以前の6割程度となっており、受診者数の一日平均は16.09人であった。

6 収益事業

- ・立体駐車場を福山東警察署職員及び職員へ、東深津町の借地を看護学生へ月極駐車場として賃貸している。
- ・医療関係の各種講演会等の実施のため、医師会館を貸会場としている。COVID-19の5類への移行後も参集による講演会等の開催が減少しており、実績は2件のみであった。
- ・福山市から在宅医療・介護連携推進事業の委託を受け、在宅医療・介護連携に関する相談に応じ、会員医療機関及び関係機関との円滑な連携へ貢献を図った。

7 新型コロナウイルス対策事業

- ・新型コロナウイルス対策事業は、2023年5月7日を以って終了しており、今年度を持って財務諸表から削除となるため、残資金を法人会計へ資金移動した。

III 法人会計

1 法人会計

- ・福山市が設置し、4医師会で構成する夜間成人診療所共同事業体が指定管理者となっている夜間成人診療所の運営事務の一部を受託実施した。
- ・A会員の新規入会は2名であった。
- ・臨時総会を2024年5月16日、定時総会を2024年6月15日に開催した。
- ・理事会を2024年4月22日、5月13日、5月27日、6月24日、11月11日および2025年3月10日に開催した。

2 システム

- ・医療機関向けセキュリティ対策実務者勉強会の開催
医療機関に対するサイバー攻撃は巧妙化かつ増加傾向にあり、サイバーセキュリティ対策が義務化された。このような背景から医療機関の実務者向けにセキュリティ対策実務者勉強会を開催した。第1部の講演会は、ハイブリッド形式にて広島県警やNTTの方からの講演を行い、69の医療機関の参加があった。第2部は、セキュリティ対策などシステムに関する情報交換と実務担当者同士のネットワーク構築を目的として開催した。12医療機関（13名）の参加があった。
- ・ITフェアの開催
集客が見込める「福山医学祭」との同日開催とし、「第28回福山医学祭医療・介護・情報機器とサービス展示について」と称して開催した。展示会に225名の来場者があった。
- ・医師会内セキュリティ対策としての検疫ネットワークの構築
社外への持ち出しパソコンを持ち帰った際に検疫を自動的に行う仕組みを構築した。また、これに合わせて、会内のWi-fi化を進めた。

- ・BCP 対策としてのサーバーのクラウド化推進

介護システム（ほのぼのシステム）及び、WEB ファイル共有サーバー（NextCloud）および WEB 型表計算サーバー（プリザンター）のクラウド化を行った。